「専門資料の種類(3)：人文科学，社会科学の資料(1)」

★ 本日のねらい：人文科学，社会科学の資料（特に二次資料）について，その種類と活用法を学ぶ。
特に，全分野にかかわる重要な情報源である百科事典の活用法に留意する。

◆「調べもの」（および研究の出発点）で心がけるべきこと（第 5 回の授業で説明しきれなかった部分）
<1>当該分野の「概要」を理解した上で，専門的な文献（学術論文）に当たる。
例：教科書や新書などを手始めに一読する。そこに記載されている「参考文献」のリストから文献を探すのもよい。
・第 5 回の授業で扱ったビデオの説明に沿うと，研究テーマを決めた後，研究計画を立てる前に，「テーマの背景となる知識を得る」ためにこのような作業を行うべきだとされる。

<2>広い範囲の情報を集めた二次資料から調べ始め，個々の分野に限定した二次資料へと進む。
例：百科事典や大型の国語辞書，「新語辞書」（後述）などから調べ始める。その後，専門分野の事典に進む。（「個々の分野に限定した二次資料」に先に当たるのもよいが，「広い範囲の情報を集めた二次資料」のほうが様々なことがらの全体像を見渡しやすい。）

→ いずれにせよ，百科事典が重要な出発点となる！

◆ 百科事典の活用法
＊百科事典とは：知識の全分野を総合的に集大成するために，五十音順ないしアルファベット順に配列した多数の項目のもとに解説を加えた情報源。
（比較）・専門事典：特定の分野の知識を，百科事典のような形式で編集したもの。
例：『岩波哲学・思想事典』（岩波書店, 1998）　『新社会学辞典』（有斐閣, 1993）
・(1)＿＿＿＿＿＿＿：時事的な用語を解説する辞書。評価がほぼ定まった事柄を扱う「百科事典」に比べ，より新しい事柄を扱う。年刊として刊行される。
具体例として(2)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の 3 つ。

※補足：「じてん」としては「事典」「辞典」の両方の表記があるが，図書館の世界では「辞書」と区別するために「事典」を用いることが多い。
・「辞書」「事典」の違い：辞書＝「ことば」を定義し，その使い方（用例）を示す。
事典＝「ことがら」を説明する。
（「辞典」だと「ことば」の場合も「ことがら」の場合もある）

＊おもな百科事典／データベース（発行年は最新版のもの。「ネットで百科」「JapanKnowledge」については東洋大内で利用可）

- 世界大百科事典（平凡社，2005，全 35 巻，約 7 万項目）→ （データベース）ネットで百科
- 日本大百科全書（小学館，1984-94，全 26 巻，約 13 万項目）→（データベース）JapanKnowledge
- ブリタニカ国際大百科事典（TBS ブリタニカ，1994，全 20 巻。欧米で発行されている『Encyclopedia Britannica』を翻訳）→ データベースサービスは 2006 年 6 月より開始

＊百科事典のメリット・特色

- あらゆる領域を含む。（図書館に納められる知識の内容をさらに凝縮したのが百科事典と言える）
- 各領域の(3)＿＿＿＿＿（広く通用している考え方）を述べている。
- 各領域の「専門家」が書いている。その内容は，専門家以外の者にも分かりやすくなっている。
  → つまり，百科事典では(4)＿＿＿＿＿＿＿が分かりやすく凝縮されている。
- 事典によっては（例：日本大百科全書）参考文献リストがあり，さらなる調査に役立つ。

★(3)を知ることが文献探索やレポート・卒論執筆の基礎！
→ どんな考え方が基本か，どんな「専門用語」が使われているか，誰がその領域の中心人物と言えるか，などを確認する。（その上で，(3)を肯定するか，批判するか，判断する。）
(3)の確認のために，百科事典とあわせ，各領域の「教科書」「入門書」（新書のレベル）を一読すること。特に，そこでの「参考文献リスト」もチェックすること。

＊百科事典（印刷版）を見るときに注意すべきこと
・百科事典は(5)＿＿＿＿＿（五十音順に「見出し」と項目を列挙）と(6)＿＿＿＿＿に分かれるが，まず(6)から検索する（いきなり(5)から調べようとしない）。→関連事項や見出し語になっていないことばも拾い上げるようにする。
・本文中のことばから，関連したことばで調べてみる。
・複数の百科事典を引き比べる。（事典の編者や執筆者によって，説明が違う項目があり得る）
※各領域の「専門事典」や，「新語辞書」も，同様のやり方で調べてみること。

＊百科事典のデータベース：JapanKnowledge を例に

- 各項目について，冊子体や CD-ROM の百科事典よりも，はるかに迅速に更新される。
- 国語・英和・和英辞書データベース，人物情報データベース，新語辞書データベースなどを統合。
  （「評価がほぼ定まったことがら」も「より新しいことがら」も分かる）

＜項目の例「仏教」より＞
*「関連項目」が索引のかわりになる。
*「関連サイト」「参考文献」で外部の資料を紹介。

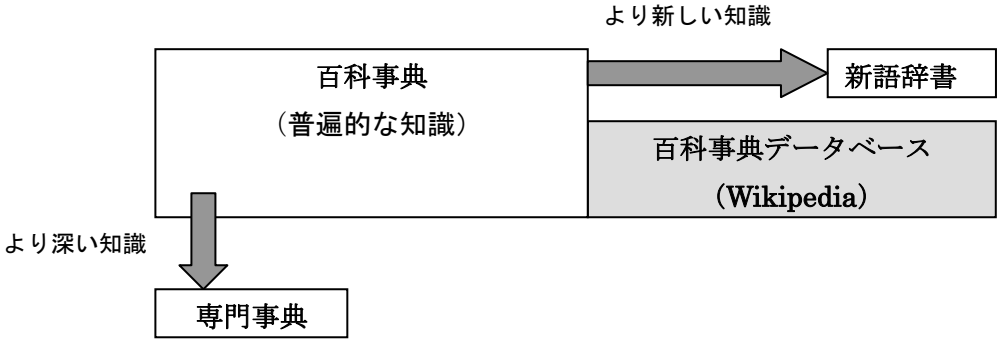
＊事典類の項目構成について
・同じ主題を扱う事典類でも，項目の構成の仕方が違うことがある。
・項目の構成に関する 2 つの方法
- (7) _____：上位概念を表すことばを見出し語にし，その下に細かい項目を立てて関連することがらを解説したもの。
（利点）特定のことがらに関する知識を網羅的に確認できる。
（欠点）見出し語が少なく検索に不便。（→索引を活用する必要がある）

- (8)_____：細かい項目ひとつひとつを見出し語とし，その下にそれぞれの解説文をつける形で編集したもの。多くの場合，項目は五十音順ないしアルファベット順で並べられる。
（利点）見出し語からの検索が容易。（欠点）事典から得られる知識が断片化しがち。
（その分，索引の工夫によってカバーする必要がある。）

※ 百科事典では(7)(8)を混合。（ひとつの項目が数ページにわたる場合もある）
『ブリタニカ国際大百科事典』は(7)の巻，(8)の巻を，それぞれ「読む事典」「引く事典」として分けている。

◆ インターネット上の「無料百科事典」
＊最も大規模なものが(9)_____。（http://ja.wikipedia.org/wiki/ ）
・ボランティアによる項目の執筆と修正：現在の日本語版の項目は 30 万件近くにのぼる。
・利点：無料なので手軽に調べられる。従来の百科事典などにはない項目や解説もあり得る。
・欠点：全面的に信頼できるかどうかは分からない。
- 冊子体の資料（百科事典含む），百科事典データベースなどで「裏を取る」ことが必要。
※「秀逸な記事」の選考方法については，トップページから「秀逸な記事の選考」の箇所を参照。

★百科事典，専門事典，新語辞書の関係



◆ 「三次資料」の活用法（凡例・目次などの確認もあわせ）
（復習）三次資料とは，二次資料（書誌，目録，索引，辞書・事典など）を探すための情報源。

＜三次資料(1)：包括的ガイド＞
＊『日本の参考図書』第 4 版（日本図書館協会，2002）を例に
「凡例」を見る：どんな本が収録されているか？　どのように配列されているか？
「文献番号」とは？　etc.

＊その他の例：
・『調査研究・参考図書目録』改訂新版（図書館流通センター，2002）：実用書的な二次資料を多く扱う。
・「レファレンスクラブ」（日外アソシエーツ）http://www.reference-net.jp/
「参考図書情報」のコーナーで，1990 年以降の日本国内の参考図書に関する情報を提供。

＜三次資料(2)：書誌の書誌＞
（復習）「書誌」とは，著者名，タイトル，出版社名，出版年，ページ数など，資料に関する特徴を記述したデータ＝「書誌事項」をまとめたもの。
「書誌の書誌」とは，包括的な，または一定のテーマのもとでの書誌のリスト。
＊主なもの
・『日本書誌の書誌』1973～　全 7 巻の予定で，現在は第 5 巻まで刊行。収録対象は明治元年（それ以前のものもある）～1970 年の書誌。（第 1・2 巻は巌南堂書店，第 3・4 巻は日外アソシエーツ，第 5 巻は金沢文圃閣<かなざわぶんぽかく>より刊行）
・『日本書誌総覧』日外アソシエーツ, 2004.　収録対象は 1945 年～2003 年の書誌。

◆ 人文科学・社会科学における，特色のある二次資料のシリーズ
※ここでは特色のあるシリーズのみをとりあげる。より詳しくは下記参照。
・毛利和弘『文献調査法：調査・レポート・論文作成必携』第 2 版（日本図書館協会, 2006）
・長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブックス』新版（日本図書館協会, 2004）

＊『全情報』シリーズ（日外アソシエーツ）
・領域ごとの主題書誌。

＊『文献事典』シリーズ（弘文堂）
・「文献案内」的性格。各領域における主要文献を解説。
『社会学文献事典』（1998）　『日本史文献事典』（2003）　『文化人類学文献事典』（2004）
『精神医学文献事典』（2003）

＊『20 世紀文献要覧大系』シリーズ（日外アソシエーツ）
・特に文学に焦点を当てた書誌。もっぱら戦後からの書誌データを収録。各巻とも随時刊行。（下線を引いたものは比較的最近のデータもカバーしている）
『日本文学研究文献要覧』（古典文学編，現代日本文学編）　『中国文学研究文献要覧』
『英米文学研究文献要覧』　『ドイツ文学研究文献要覧』　『フランス語フランス文学研究文献要覧』
『比較文学研究文献要覧』　『図書館情報学研究文献要覧』　『出版関係文献要覧』
『洋学関係研究文献要覧』　『社会学研究文献要覧』（収録年は 1965-1974）
『文化人類学研究文献要覧』　『美学・美術史研究文献要覧』

＊『知る事典』シリーズ（平凡社）
・各国・各地域の地理・歴史・社会に関する情報源。
・ アメリカ（2000），アフリカ（1999），オセアニア（2000），ラテン・アメリカ（1999），スペイン・ポルトガル（2001），東欧（2001），ロシア（2004），中央ユーラシア（2005），朝鮮（2000），東南アジア（1999），南アジア（2002），対日関係（2001）について，『～を知る事典』の名で刊行。（年代はすべて最新版のもの）

◆ まとめ
＊ OPAC や書誌・目録データベースは別として，「文系」では冊子体（紙）による二次資料に依存する傾向が（まだ）強い。
・理由としては，(10)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿を重視しているせいか？：(10)とは，図書館に置かれた資料や，二次資料の項目などにざっと（短時間のうちに多くの資料・項目について）目を通すこと。欲しい情報は固まっていないが，偶然に有益な情報を得ようとすることが目的。

＊ 「百科事典データベース」含め，冊子体の二次資料がデータベースに置き換わっていることも多く，そうしたものは信頼性が保障されていると言える。（冊子体と同じように，「商品」に対する編集・チェック体制が備わっているから）
・どの冊子体がどのデータベースに対応しているか，については，上述した『文献調査法』『情報源としてのレファレンスブックス』を参照。

【次回予告】「文系」の専門資料に関する情報源について，インターネット上のものを中心にとりあげる。